

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	福岡 依鈴
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 初期豆男物の系譜と趣向の研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授	久保田 啓一
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	妹尾 好信
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	溝渕 園子
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	清泉女子大学・学長		佐伯 孝弘
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、江嶋其磧『魂胆色遊懐男』に始まる、魂の入れ替わりと身体の微小性という二つの趣向を継承した浮世草子、即ち豆男物と呼称される作品群を取り上げ、影響関係の見られる作品相互の比較を行い、趣向の変遷の諸相を明らかにしようとしたものである。序章で各作品を概観し、数少ない先行研究を紹介した後、第一部『栄花遊二代男』以降の初期豆男物の研究の第一～五章で相互の比較を通して各作品の特徴を浮かび上がらせ、第二部『初期豆男物における趣向の変遷』の第六～八章で趣向に対し通時的な検討を加えている。終章で全体のまとめを行い、文学史上の位置づけを行う。</p> <p>第一章では、其磧『魂胆色遊懐男』(正徳二年頃刊)とその続編『豆右衛門後日女男色遊』(正徳四年頃刊)を受けて出版された作者不詳『栄花遊二代男』(宝暦五年成)を俎上に載せ、主人公に特殊能力を授けたり教訓を与えたりする存在の設定が後続の作品に大きな影響を与えたことを明らかにした。</p> <p>第二章では、御客散人『吾妻男仙伝枕』(明和三年成)の中の、在原業平と関連のある記述に詳細な検討を加え、「まめ男」業平からの連想で業平にまつわる趣向が取り込まれていることを具体的に述べた。「伊勢物語」をはじめとする業平伝説の享受という観点からも有意義な作品論となっている。</p> <p>第三章では、雁金その字序『色道修行男』(明和五年序)巻三の三章が互いに関連付けられていることを指摘する。具体的には、一章と二章が明和四年頃の歌舞伎界の出来事や評判を巧みに生かし、二章が歌舞伎からの連想で謡曲「山姥」・浄瑠璃「囃山姥」を利用し、三章が山姥の設定を受け継いで老婆を登場させるというように、作者の設定した趣向を見事に解き明かしている。</p> <p>第四章では、漁柳序『潤色栄花娘』(明和七年序)を取り上げ、先行する諸作との比較や本文の分析から、本作の特質を明らかにした。女性の主人公という設定が清水寺の観音信仰の利用を必然的なものとしたという指摘は重要であり、御伽草子や仮名草子で女性や色恋と結び付けられることの多かった清水寺の観音信仰とも関連付けられて、文学史上にもきちんと位置付けられることとなった。</p> <p>第五章では、寝ぼけ先生序『潤色栄花二代娘』(安永三年序)と先行する『潤色栄花娘』とを精密に比較することを中心に置く。両作の相違が最も明らかとなるのは主人公の設定であるとし、『潤色栄花娘』で作品を支えた観音信仰が『潤色栄花二代娘』では消えていることと、『潤色栄花二代娘』が『魂胆色遊懐男』に始まる豆男物の正統な後継作であると標榜することを結び付ける論は優れている。</p> <p>第六章では、其磧『けいせい色三味線』(元禄一四年刊)と『魂胆色遊懐男』に共通する魂の入れ替わりの趣向を比較検討し、『魂胆色遊懐男』の持つ独自性を明らかにした。前者の傾城買いの心玉が人々に金銭を浪費させる一種の怨霊に近い存在であり、冒頭と結末にしか登場しないのに対し、後</p>			

者の大豆右衛門は色恋を楽しむという目的のために主体的に魂の入れ替わりを実施し、全編にわたって登場するという指摘は、両作の相違を鮮やかに浮き彫りにした。

第七章は魂の入れ替わりの趣向を豆男物総体として意味づけ、第八章は『魂胆色遊懐男』と御伽草子の小沙子譚との比較から身体の微小性の趣向の変遷を見通す。本論各章を俯瞰する形での総論となっている。

表現論と典拠論を組み合わせた近世文学研究の正当な方法で豆男物に取り組み、見事な成果を上げた研究である。未翻刻の本文提供や後継の作品への言及など、残された課題もあるが、今後の研究継続に期待したい。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)